



「短歌を学んで短冊を書こう」

小学生短歌受賞作品発表!

本年度も「短歌で短冊を飾ろう」のイベントに多数ご参加いただきありがとうございました。今年もみなさんが一生懸命考えてくれた歌を見ることができて嬉しいです。今年は久しぶりに生徒自身の「希望」が詠まれた歌が多かったです。

特に感心したのは、言葉の選び方です。表現技法を巧みに入れてある歌があり、普段授業で秀でた短歌を暗記していることを活かしている歌がいくつもありました。

創学舎の授業で百人一首を学ぶことは、ただ歌を暗記するだけでなく、時代背景、歌人の個性など様々な知識を習得する素晴らしい機会を積み重ねているということでもあります。これからもしっかりと学習し「地頭」を鍛えていきましょうね。

短歌選考委員会委員長 関野

特賞(一名)

☆梅ジュース 思い出の夏 祖母の家

祖母の手作り 楽しみな味

【受賞者 福田 さくらさんのコメント】
たくさんさんの作品の中から選ばれたことを光栄に思います。

【我孫子教室長 高寺より】

日本の古き良き夏の情景が浮かぶ、素晴らしい歌だと思います。



金賞(一名)

☆星祭り それぞれちがう 願い事

笑顔あふれる 七月七日

【受賞者 山崎 明莉さんのコメント】
金賞がとれると思わなかったので、とれてうれしいです。

【江戸川台教室長 松永より】
厳かな空感と、地上の活気ある笑顔。対比がとてもすてきです。

銀賞(二名)

☆夜の森 ほんのり光る ほたるたち

小さな灯しび 宙をおどるよ



【受賞者 角田 悠翔くんのコメント】

前にホタルを見に行ったときの事を思い出して書きました。

【流山おおたかの森教室長 佐々木より】
悠翔くんの歌で美しい情景が思い浮かびます。受賞おめでとう!

☆お母さん ずつと言いたい ありがとう

これからもよろしく 大好きだよ

【受賞者 平塚 誠吾くんのコメント】

お母さんの感謝の気持ちを、短歌で表しました。

【江戸川台教室長 松永より】
お母さんへの感謝にあふれていますね。お父さんにも伝えてね。

銅賞(八名)

☆生ハムよ なぜそんなに おいしいの

お米にもあう サラダにもあう

【受賞者 小椋 鈴さんのコメント】
受賞して、うれしいです。これからも勉強をがんばります。

【我孫子教室長 高寺より】
美味しいものに出逢えた感動が伝わってくる素敵な歌ですね。

☆夏休み デイズニールランドのしみだ

早くいきたい まちどおしい

【受賞者 青山 珠友さんのコメント】
まさかどうしようになるとは思わなかったです。

【江戸川台教室長 松永より】
待ち遠しい気持ちがいっぱい、私たちも笑顔になります。

☆学校が 桜と共に 遠ざかる

新たな一歩 未来へつなぐ

【受賞者 大川 結愛さんのコメント】
まさか受賞できるとは思っていませんでした。

【柏教室長 五日市より】
六年生らしく卒業後の未来を詠んだ歌。がんばろうという意志を感じます。

☆夏の夜 きれいに光る ホタルたち

ホタルにのせて 夢よかなえ

【受賞者 池田 菊香さんのコメント】
受賞できるとは思っていませんでした。

【新柏教室長 松尾より】
夏の夜の幻想的な景色が目につかびます。池田さんの夢、叶えてくださいね。受賞おめでとうございます。



☆暑い夜 空見上げたら さそり座だ
赤いはさみで 星つつみこむ

【受賞者 根本 萌花さんのコメント】
銅賞に選ばれて、うれしい。
【流山おおたかの森教室長 佐々木より】
はさみで星をつつみこむ、優しさが溢れています。受賞おめでとう!



☆友達に いいことあったらうれしいな

みんな幸せになりますように

【受賞者 若林 快維くんのコメント】
とてもうれしいです。次は「金賞」に選ばれるように頑張ります。
【パーソナル我孫子教室長 上田より】
友達思いの優しさに感動しました。友達にも快維くんにも幸せが訪れますように。

☆ミニトマト スクスク育て 暑い夏

私のせをこせ 大きく育て

【受賞者 酒巻 和夏さんのコメント】
銅賞とれてうれしいです。トマトの栽培がんばります。

【パーソナルおおたかの森教室長 矢上より】
ミニトマトを大事に思う気持ちが、よく伝わる短歌でした。

☆朝早く 早起きをし 勉強し

漢字テストで 満点をとる

【受賞者 松田 いおりさんのコメント】
朝早く起きて、漢字テストに向けて毎朝頑張つて百点をとる!
【パーソナル柏教室長 山崎より】
最近漢字練習を頑張っている松田さん、満点間違いなしです。

「内申点」について



早いもので、流山おおたかの森教室が開校してから三年が経ちました。開校してから毎年創学舎ニュースに教室の近況を書いてきましたが、今回は、趣向を変えて、入試情報部部長として、千葉県の入試について書いてみたいと思います。

千葉県公立高校入試(以下、公立入試)の日程は、令和七年度入試は二月十八、十九日と決まり、年々早くなっています。願書の提出は現中三から、**全校インターネット出願**となります。これらは、保護者会でもお知らせしているので、ご存じの方も多いと思います。

さて、公立入試は、令和三年入試から前期・後期の二回制が廃止となり、一本化されました。以降、個人的に大きな変更と考えるのが、初年度の内申調整の廃止と、今春の**マークシートの導入**です。今回は内申調整の廃止について詳しく書きたいと思います。

内申調整とは公立入試で令和二年まで行われていた、中学校間の内申格差を減らすための方策です。公立入試では、中一から中三までの各学年の内申点の合計(9教科×5段階×3年間)135**点満点**が入試当日の得点に加算されて、合否が決定します。

成績が相対評価だったときは、5と1は全体の7%。4と2は14%と、どの学校も一律でしたが、**絶対評価になると、1や2がほとんど姿を消し、5は相対評価の頃の3倍に増えました。そして、学校間の内申格差が広がりました。**

1や2が皆無で4や5に評価される生徒が多い学校と、1や2もある程度存在し、5がとりにくい学校、いわゆる「甘い中学校」と「辛い中学校」の格差です。内申点が高いと公立高校に合格しやすくなるわけですから(ついでに私立高校の推薦

基準もクリアしやすくなります)、これを放置しておく、内申点のバブル化が懸念されます。

そこで、千葉県では全県の平均を9.5点とし、中学校の平均がそれより低い場合、その中学校の生徒全員に一律でその差を加点し、逆に平均より高い中学校の生徒全員から一律でその差を減点して、学校間格差を低減する措置を取っていました。

努力して高い成績を取ったのに、内申平均が高い中学校にいたため、入試で減点されてしまう生徒もいたので、この制度は完璧だったというわけではありません。

そんなこともあり、中学校間の内申格差が小さくなり所期の目標を達成したとして、入試が一本化された**令和三年度入試からこの内申調整は廃止**されました。しかし、**格差は小さくなっただけで無くなってはいません。**今年も現高一の中学校毎の内申が、七月に千葉県教育委員会から公表されました。すでにご覧になった方もいるかと思いますが、中学校によってかなりの差が生じています。

ここでは学校名は出しませんが、**東葛地区の中に限っても「甘い中学校」は100点、「辛い中学校」は90点以下**となっています。すなわち、これらの中学校の生徒が同じ高校を受験する場合、入試当日より前に10点以上の差がついているということです。それでもすぐに内申調整が復活することはないようです。

ただ、勘違いしてほしくないのは、現高一に「甘い」成績をつけた中学校が翌年以降も「甘い」学校である保証はないこと、また、あくまで平均点の話なので、「**辛い中学校**」でも頑張ればよい**内申点は取れる**ということです。

そこで、受験のためだけではないのですが、中一、中二のみなさんは、目の前の定期テストに全力で臨まなければなりません。入試当日の点数は、直前まで上がる可能性があります。中一、中二

の内申点は後で変えることはできません。中三の受験期になって「中一からもっと頑張っておけばよかった」と嘆く、残念な声を時に耳にします。そうならないよう、**夏休みの宿題を期限までに仕上げ、秋の定期テストに向けて今できることに全力で取り組み**しましょう。夏休みもあと少しです。(佐々木)

私の勉強術 その五

公式の覚え方

$$\tan(a+\beta) = \frac{\tan a + \tan \beta}{1 - \tan a \tan \beta}$$

私は現在小中学部で理数系の科目を担当しています。時々卒業生が高校の数学や理科の質問を持ってきて、答えることもあります。このように話すと、さぞかし子どもの頃から理数は得意だったのだろうと皆さん思われるようです。実は中高生時代、私はそれほど勉強が得意ではありませんでした。高一のときは、理数を含め赤点科目が数科目あったのを覚えています。

こんな話をすると生徒には驚かれますが、今回はその後どのようにして成績を伸ばせたのかを自分なりに解析してお話しできればと思います。今でもそうですが、私は「覚えこむ」ということが苦手です。だから、英語などは本当に苦労をしました。暗記要素が少ない数学は、その点では私向きの科目でした。しかし、それでも公式が覚えられなくて大変困った記憶があります。だから、公式は単純暗記ではなく、**公式の成り立ちを理解し、そこから公式そのものを導き出せるようにして覚える**ようにしました。

わかりやすい例を挙げると、台形の面積の公式を忘れてしまっても、三角形二つに分ける、あるいは、同じ台形を逆さにして合わせ平行四

辺形をつくりその面積を二等分する、という解法が分かっていたら、公式を再現することができます。

実例としては、高校数学の三角関数で学ぶ加法定理があります。定理そのものが六つの公式からなるだけでなく、そこから派生した二倍角、三倍角、半角の定理や、合成、積和、和積の公式を含めると、全部で二十以上の公式となり、暗記しようとしてもなかなか覚えられません。このようなときは、**丸暗記する公式は最低限に減らし、あとはそれを変形することで他の公式を導けるようにしておく**といい訳です。

また、答え合わせをするとき、間違ったとき、しかも何が間違いか気付かないときは、これでもかと言わんばかりに**途中工程を事細かに書きながら解き直し**をしました。これは途中式だけでなく、図形やグラフ、表や樹形図などを書く作業も含みます。最初に解くときも途中工程は書きますが、それをさらに細分化して書き出すことで、新たな気付きがあることも多いのです。これらの経験は、現在数学のアドバイスをするときに生きています。ただ覚えるだけではなく、**なぜそうなるのかを自分自身で確かめてみる**。それを何度か繰り返していくうちに「覚える」というより「身に付く」のです。

勉強法には教科特性があります。それを踏まえて、自分がどの教科が得意で、どの教科が苦手なのか、まず知ることです。そして、もし苦手教科が理数であるならば、「**二対一対応の覚えこみ**」ではなく、「**問題を解くための手順**」を**しっかりと身に付ける**ことが大事だと思います。これは今でも新しいことをする際の私のセオリーになっています。(岡本)